

本資料及び資料に含まれる第三者著作物を再使用する場合、
利用者は、それぞれの著作権者より使用許諾を得なくてはなりません。

思索と言語

言葉を科学する：人間の再発見

奥 聡

Day 09: 「統語論（句や文を組み立てる仕組み）」の再発見 (3)

(B)

(C) 次のうち先週の授業で、論じたことに当てはまらないものを **2 つ** 選び、○をつけなさい。

=====

Quick Review

- (QR1) 「ロスの制約」(「(複合) 名詞句の中からの要素の抜き出しはできない」) は、本当に普遍的な言語に関する原理・法則なのか？全ての言語の全てのパターンが、この制約に従っているかどうかは調べることはできない。
- (QR2) 「万有引力の法則」は、本当に普遍的な物質の世界に関する原理・法則なのか？全ての物体が本当にこの法則にしたがっているかどうかは調べることはできない。
- (QR3) 科学者は、ある仮説に関して、「説明できる事実がたくさんある」ということ以外に、) 何を根拠に普遍的原理・一般法則と認定するのか？
- (QR4) なかなか見込みがありそうな仮説：「例外」と思われる事実が見つかったらどうする？

1. 言語獲得のモデル

- (1) 必要なもの
 - a. 言語が話されている環境（養育放棄の例）
 - b. 人間の脳（人間以外は人間言語を獲得できない）
- (2) a. 一次言語資料 (Primary Linguistic Data: PLD)
↓
b. 言語獲得装置 (Language Acquisition Device: LAD) : 普遍文法 UG
↓
c. 特定言語の言語知識 (Knowledge of Language: KL)

- (3) a. PLD とは何か？何が言語獲得に必要なデータか？
 b. LAD (UG) (生得的言語能力) とは何か？
 c. KL とは何か？ある言語の母語話者であるとは何を知っている？

LAD は、PLD を入力として、KL を出力とする一種の関数：LAD(PLD) = KL

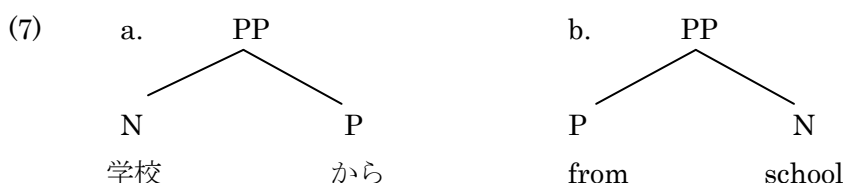
ロワイヨール人間科学研究センター（著）1986『ことばの理論学習の理論：ジャン・ピアジェとノーム・チョムスキーの論争』（K・I・C 思索社）

- (4) a. ピアジェ：学習がほとんど。人の心は何でも学べるようにできている
 b. チョムスキー：生得がほとんど。言語獲得は単語の獲得とパラメータ値の設定

2. 「生得」か「学習」か

- (5) PLD (一次言語資料)の中身
 a. 積極的証拠 positive evidence (周りの大人が話す事例)
 b. 直接的否定的証拠 direct negative evidence (子どもの間違いを大人が直す)
 c. 間接的否定的証拠 indirect negative evidence

- (6) 「学校から」と「from school」




- (8) 日本語は主要部後置 (日本語は、複合語も含めて全て基本的に主要部後置)
 英語は主要部前置 (英語は、複合語以外は基本的に主要部前置)

- (9) 子どもはどうやって学ぶ (1)
 主要部方向パラメータ (生得的言語知識)
 + 事例に触れる (積極的証拠)
 => 事例にいくつか触れると、パラメータの値がセットされ、「逆方向の語順はない」という言語知識を身につける(特定の領域で選択肢が限定されている場合可能)

- (10) 子どもはどうやって学ぶ (2)
 (生得言語知識はとくになし)
 + 事例に触れる (積極的証拠)
 + 逆方向の語順のデータには触れない (間接的否定的証拠)

- (11) a. (9)を支持するためにはどのような論拠を挙げればよいか？
 b. (10)を支持するためにはどのような論拠を挙げればよいか？

- (12) Ross の制約
 (複合) 名詞句からの抜き出しはできない
 * X ... [複合名詞句 ...]

- (13) 生得説
 Ross の制約は生まれつき身につくようにできている
- (14) 学習説
 間接的否定的証拠から (いくら待っても Ross の制約違反の構造にであわない)
 ⇒ Ross の制約が学習によって身につく
- (15) 簡単には決められない
 選択肢が厳しく限定させている主要部位置パラメータの場合と異なり、論理的には考えられる転位のパターンは、たくさんありそう。(そのなかで、どのパターンが実際に不可能で、どのパターンが実際に可能であるのかをどうやって身に付けた?)
- (16) 生得説を支持する考え方
- 子どもの言語獲得は限りなく **error-free** (語順に関する誤りはほとんどしない) 「try and error」という方策を子どもは使わない
 - 言語知識の多くはとても抽象度が高い
merge、長距離依存、Ross の制約
 - 短期間で (同じ言語共同体で) 共通の言語知識が身につく
 - 共通の言語特徴が多く (全ての?) 言語に見られる
Snyder, W. 2011. *Children's Grammatical Conservatism*.

3. 共通の意味を異なる方法で: 日英比較の Case Study

- (17) class work 9-1
 次の違いを、日本語学習中のアメリカ人にどのように教えますか?
- 太郎が来た (Taro came.)
 - 太郎は来た (Taro came.)
- 久野すすむ (<=日編に章) 1973. 『日本文法研究』 (大修館書店)
 野田尚史. 1996 『「は」と「が」』 (くろしお出版)
- (18) 以下がパラメータかどうかは分かりません (とりあえず、表面的特徴として)
- (19) 英語: 冠詞がある言語
 日本語: 「は」「が」の区別がある言語 (「主題卓越型」)
- (20) 命題: 単純判断 (thetic judgment) と複合判断 (categorical judgment) に分けられる人間が出来事を理解する 2 種類のやり方 => 普遍的

- (21) どのように言い表すかは言語ごとに異なる
- (22) a. 単純判断：出来事全体を「新しい情報」として提示。
バスが来た。 学生が歩いている。
- b. 複合判断：あるものに対して、叙述する
本は机の上にある。学生はさっき帰りました。
- (23) 日本語では
単純判断を表すのに主語を「が」でマーク
複合判断を表すのに主語を「は」でマーク
- (24) *注意！
以上が「は」や「が」の機能の全てではありません。
（「は」「が」の機能の中に(23)もあるということ）
- (25) 英語では
単純命題を表すのに不定冠詞を使う（there/here 構文がなお座りがよいかも）
複合判断を表すのに定冠詞を使う
- (26) a. A bus has come. Here comes a bus. A student is walking.
b. The bus has come. The student left.
- (27) *注意！
以上が、定冠詞・不定冠詞の機能の全てではありません
（定冠詞・不定冠詞の機能の中に(25)もあるということ）
- (28) There 構文は、基本的に単純判断専用
a. There is a book on the desk.
b. There were three students in the room.
- (29) ある言語で表すことができる概念を別の言語で表すことはできないということはない。（そうであれば翻訳は不可能）
- (30) それを表す際に用いる構文や言語形式は言語ごとに変わることは大いにありうる

5. まとめ

- (31) 言語獲得のモデル：LAD (PLD) = KL
- (32) 「生得」か「学習」か
- (33) 共通の意味を異なる方法で：日英語比較の Case Study
単純判断・複合判断をどのような構文で表すか？

Homework Assignment 09

*WebTube にログインして、「言葉を科学する」のクラスに入り、「09-HW09 (言葉科学)」を期限までにやりなさい。(水曜日午後 9 時)：重要な予習復習になるので、しっかり。

<https://webtube.c11.hokudai.ac.jp/>